

未来へつなぐ東海道のみちづくり

保土ヶ谷宿 「東海道の歴史的資源を活かしたみちづくり整備方針」を策定しました！

平成 21 年度から拡幅事業を進めている一般国道 1 号（保土ヶ谷橋工区）（延長約 800m）は、東海道の「保土ヶ谷宿」であったことから、多くの歴史的資源が残されており、また、箱根駅伝では「花の二区」として親しまれている区間です。

この度、これまで積み重ねられた東海道の歴史を、みちづくりを通じて未来へつなげていくために、周辺住民へのアンケート調査を踏まえ、地域史、土木史、景観デザイン、歴史的建造物等各分野の学識経験者と検討を重ね、「東海道の歴史的資源を活かしたみちづくり整備方針」を策定しました！

1 『東海道の歴史的資源を活かしたみちづくり整備方針』の概要

(1) コンセプト

東海道の歴史的資源を活かしたみちづくり

～多くの人に愛されながら保土ヶ谷宿の歴史を紡ぐ～

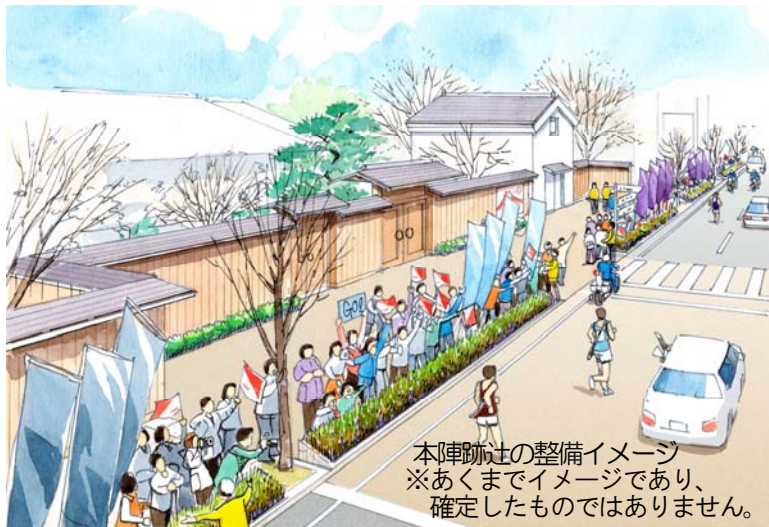
(2) みちづくりの基本方針

基本方針 1：時代毎に刻まれた歴史を語り継ぐみちづくり

基本方針 2：保土ヶ谷宿周辺の多様な資源をつなぎ回遊の骨格となるみちづくり

基本方針 3：歴史・文化を活かした交流促進と情報発信を支えるみちづくり

基本方針 4：地域とともに創り育てるみちづくり



整備計画の方向

回遊起点となる五つの「辻」の整備や歩行者案内サイン・歴史解説板の設置、軽部本陣跡の門や蔵・旅籠本金子屋跡・保土ヶ谷橋の活用などを実施していくことを検討します。

詳しくは、今回策定した整備方針をもとに、平成 24 年度以降、市民の皆様とともに計画を策定していきます。

※辻：二つの道路が十字に交差していることに由来し、四方からの道が集まる交通の要所や交差点のことを言います。

(3) 今後のスケジュール

	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度以降
整備方針検討 (住民アンケート調査)	→★			
整備計画策定 (市民参加による検討)		→	→	
道路設計			→	→

★平成 24 年 3 月 23 日 第 114 回横浜市都市美対策審議会にて審議し、了承されました。

※上記スケジュールはあくまで予定であり、決定したものではありません。

(4) 整備方針の検討体制

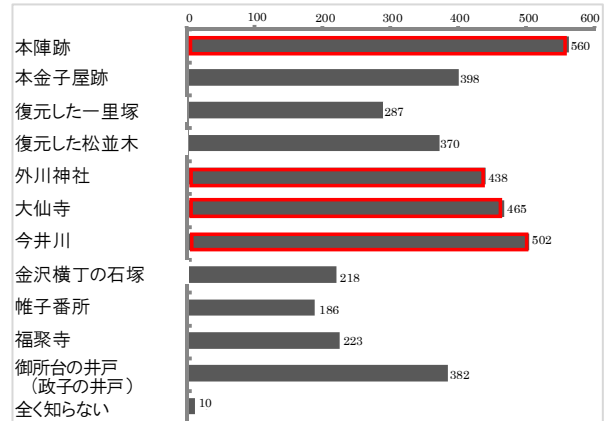
○検討会メンバー：

伊東 孝(日本大学教授)	土木史、景観工学
大野 敏(横浜国立大学大学院准教授)	歴史的建造物・横浜市歴史的景観保全委員
斉藤 司(横浜市歴史博物館 学芸員)	地域史、近世史
佐々木 葉(早稲田大学教授)	景観デザイン・横浜市都市美対策審議会委員

○アンケート概要：

- ・対象者：保土ヶ谷橋工区周辺住民（10自治会）
- ・実施時期：平成23年12月
- ・配布数：3,220票（回収率19%）
- ・結果概要：
 - 宿場町の一部であったことの認知度：93%
 - 保土ヶ谷橋工区周辺の歴史・文化・自然資源の認知度：本陣跡、大仙寺、今井川などが資源として多くの人に認知されている

歴史・文化・自然資源の認知度(n=603)



2 拡幅事業の概要

(1) 区間

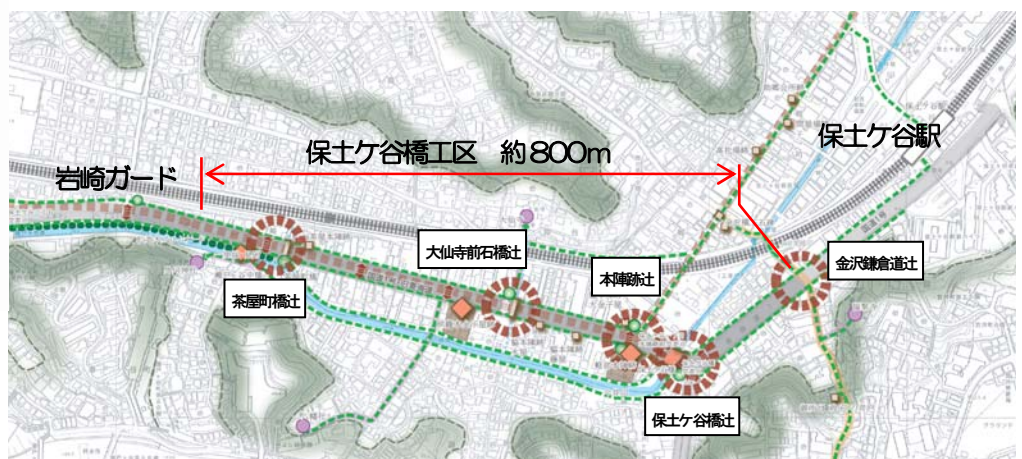
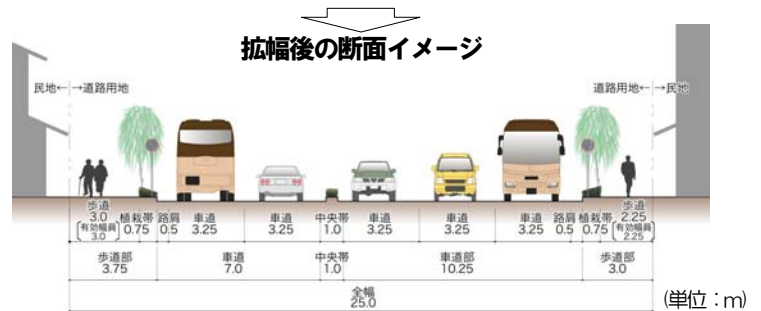
起点：保土ヶ谷区岩井町（上岩間踏切出口信号交差点付近）
 終点：保土ヶ谷区保土ヶ谷二丁目（岩崎ガード交差点付近）

(2) 事業期間

平成21年度～平成27年度

(3) 事業規模

延長：約800m
 幅員：25m（上り3車線、下り2車線の5車線）



お問い合わせ先		
道路局建設課 建設課長	松尾 寛	Tel 045-671-2747
都市整備局都市デザイン室長	中野 創	Tel 045-671-2009
保土ヶ谷区区政推進課長	萩原 健司	Tel 045-334-6220

ほ ど が や し ゆ く つ う し ん
保土ヶ谷宿みちづくり通信

保土ヶ谷宿“ほっと”なお話(その2)「保土ヶ谷橋」

現在進められている拡幅事業の中で大きく変化する、保土ヶ谷橋交差点付近に位置する保土ヶ谷橋は、震災復興期の歴史を今に伝える大事な歴史的資源となっています。今回の“ほっと”なお話では、今なお当時の部材や素材が残され、歴史的に貴重となっている保土ヶ谷橋の紹介をしたいと思います。

保土ヶ谷橋は横浜市内で最も西側の内陸部に位置する震災復興橋梁として建設されました。震災復興橋梁は橋詰広場を4箇所設けた形態が特徴の一つで、そこには歴史的に交番(番屋)や火消し(火の見櫓)が設置されていることが多くなっています。江戸時代には高札場(情報掲示板)が設置されることも多かった橋詰広場は、都市空間の中において人々が交流する重要な場所として防災・交通・治安・監視の機能を持っていました。

保土ヶ谷橋は橋詰広場が4箇所残されていることや、親柱、銘板の状態がよいこと、束柱が残っていることから価値の高いものとなっています。更に、主桁や縁石等が非常に良好な状態で残っているので復興の様子を今に伝える近代期の貴重な歴史的資源となっています。



保土ヶ谷橋の現況

今年度検討経過と今後のスケジュール(予定)

	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度以降
整備方針検討 (住民アンケート調査)	<ul style="list-style-type: none"> 住民アンケートの実施 地元活動団体ヒアリングの実施 			
整備計画策定 (市民参加による検討)		<ul style="list-style-type: none"> 回遊起点となる「辻」の検討 歩行者案内板の検討 歴史解説板の検討 軽部本陣跡の門や蔵の活用検討 旅籠本金子屋跡の活用検討 保土ヶ谷橋の活用検討 		
道路設計				

※上記スケジュールはあくまで予定であり、決定したものではありません。

発行：横浜市道路局建設課 担当：木村、松本、江副
 問合せ先：(電話番号) 045-671-3542
 ホームページ：道路局建設課(一般国道1号(保土ヶ谷橋工区))
<http://www.city.yokohama.lg.jp/doro/kensetsu/r1/hodogayabashi/>
 編集協力：横浜市都市整備局都市デザイン室、保土ヶ谷区政推進課

みちづくりの整備計画を一緒に考えていきましょう!

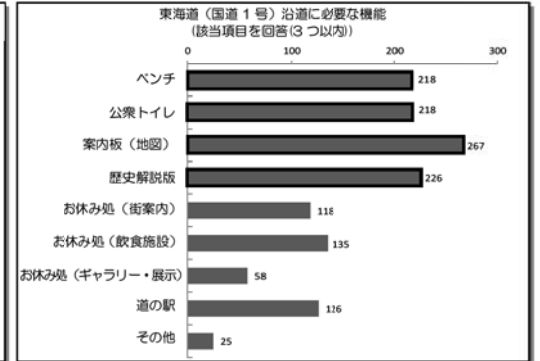
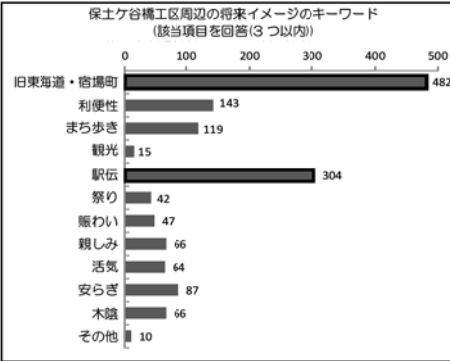
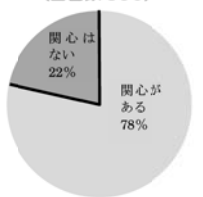
昨年末に、主に地元住民の方々や地元でまちづくり等の活動をしている団体の方々を対象にアンケートやヒアリングを実施し、貴重なご意見を頂きました。これらの意見等を参考に、整備計画策定に向けた、みちづくりの整備方針を作成しました(整備方針の概要については、裏面をご覧ください)。来年度以降には、多くの人に愛されるみちづくりを進めていけるよう、皆様と一緒に整備計画をつくっていきたくと考えています。

●アンケート結果(抜粋)

- 対象者：下記対象区域の全世帯
- 実施時期：平成23年12月
- 配布回収方法：自治会による配布、自治会による回収またはFAX回収
- 回収率：19.2%(回収/配布=618票/3,220票)

保土ヶ谷中地区		保土ヶ谷南部地区	
保土ヶ谷町自治会	岩井町自治会	サンヴェール保土ヶ谷自治会	
保土ヶ谷町二丁目自治会	瀬戸ヶ谷中町自治会	グランドメン自治会	
元町自治会	瀬戸ヶ谷町自治会	モアグランデ自治会	
	保土ヶ谷駅前ハイム自治会		

みちづくり等への興味・関心(回答数590)



●地元活動団体ヒアリング概要

- 対象者：地元活動団体8団体(東海道風景街道、保土ヶ谷宿松並木プロムナード水辺愛護会、保土ヶ谷宿名物会、ほどがやガイドボランティアの会、保土ヶ谷まちづくり工房、よこはま洋館付住宅を考える会、保土ヶ谷駅東口商店街組合、保土ヶ谷駅西口商店街)
- 実施時期：平成23年12月6,15,27日の3日間
- 実施時間：各団体概ね1時間程度
- 参加者：延べ28名
- 質問内容：保土ヶ谷橋工区の現在の問題点・課題点、重要と考えられる歴史的資源、みちづくりへの期待等

●ヒアリング結果(主な意見)

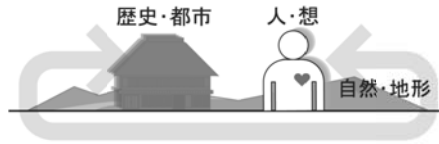
- 保土ヶ谷橋工区の現在の問題点・課題点について：トイレがないこと、横断歩道が少ないこと、電線の地中化が必要等
- 重要と考えられる歴史的資源について：軽部本陣跡、本金子屋跡、脇本陣跡等の歴史解説板やモニュメント等、資料館等として活用したい等
- みちづくりへの期待について：バリアフリーやユニバーサルデザインを採用して歩きやすくなる道を整備してほしい、現在整備されている松並木をつなげてほしい。等

みちづくりの整備方針(概要)

1 みちづくりの整備コンセプト

『東海道の歴史的資源を活かしたみちづくり』

～多くの人に愛されながら保土ヶ谷宿の歴史を紡ぐ～



沿道のイメージパース



本陣跡地イメージパース

2 みちづくりの基本方針

東海道は約400年前から歴史を積み重ね、本陣跡、旅籠本金子屋跡、保土ヶ谷橋などの貴重な歴史的資源を有しながら、現在においても交通の大動脈です。保土ヶ谷橋工区では、これらの歴史的資源を有効に活用しながらみちづくりを進めていきます。

歴史を



基本方針1: 時代毎に刻まれた歴史を語り継ぐみちづくり

- ・都市形成の歴史や保土ヶ谷宿の特性の継承
- ・軽部本陣跡や旅籠本金子屋跡、保土ヶ谷橋等の現存する歴史的資源の継承
- ・失われた歴史的資源の継承
- ・歴史が想起されるとともに後世にわたって継承される耐久性の高い道路整備

基本方針2: 保土ヶ谷宿周辺の多様な資源をつなぎ回遊の骨格となるみちづくり

- ・回遊しやすい「みち」と「辻[※]」の整備
- ・回遊性を高める歩行者案内サインや歴史解説板等の整備

基本方針3: 歴史・文化を活かした交流促進と情報発信を支えるみちづくり

- ・保土ヶ谷宿のまち歩き支援と情報発信・PR
- ・地域の文化を育み・交流を促す
- ・箱根駅伝をはじめとするイベントへの対応

基本方針4: 地域とともに創り育てるみちづくり

- ・計画・整備段階からの市民や地域の参加
- ・管理・活用を考慮したデザインと枠組み検討

※辻：二つの道路が十字に交差していること由来し、四方からの道が集まる交通の要所や交差点の事を言います。

3 整備計画の方向

次の整備計画の方向をもとにし、次年度より市民参加を行いながら「みちづくりの整備計画」を定めていきます。

整備計画の方向1: 歴史を継承する道路整備

- ・江戸時代や近代化以降の歴史を活かした近世・近代のイメージの付与
- ・旧東海道・現東海道の道筋を継承する路面整備
- ・往時の街の状況を想起させるデザインの埋め込み

整備計画の方向2: 周辺の各資源への回遊起点となる辻やサイン等の整備

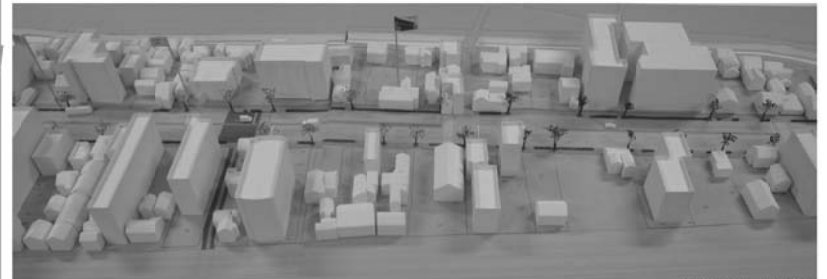
- ・回遊起点となる5つの「辻」の整備
- ・歩行者案内サイン、歴史解説板の設置

整備計画の方向3: 拠点形成や駅伝を活用した情報発信・PR

- ・軽部本陣跡の門構えや鉄筋コンクリート造の蔵、旅籠本金子屋跡などの有効活用
- ・地域内外・市内外の交流の促進
- ・駅伝での応援や沿道の一体感への配慮

整備計画の方向4: 地域参加による道路整備と維持管理

- ・市民参加による整備計画の策定
- ・市民参加によるみちづくりと維持管理



整備イメージ模型